

投資事業評価調書（新規）

部課室名	港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原 平 (建設係長 坪田 勝幸)	内線	4440 (4450)
------	-----	---------------------	---------------------------	----	----------------

事業種目	港湾事業	事業名	事業区間	総事業費	35.0億円
		家島港・網手港改修	家島・網手地区	内地補償費	億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
飾磨郡家島町			H18	H18	H27
事業目的			事業内容		
家島港では安全・安心な離島航路の確保及び水域利用の適正化が求められている。旅客船ターミナル周辺の再整備を行うとともに一部機能を移転する網手港の施設整備を図り、家島町の住民生活の向上、産業及び観光の活性化を図る。			家島港	物揚場(-3.5m)改良 護岸 棧橋 ターミナル用地	L= 50.0m L= 70.0m L= 30.0m A= 2,400m2
			網手港	物揚場(-3.5m)新設 物揚場(-4.0m)新設 取付護岸 防波堤新設 ふ頭用地・道路	L= 60.0m L= 120.0m L= 60.0m L= 300.0m A= 8,000m2
			[負担割合 国6/10,8/10 県4/10,2/10]		

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性 安全・安心 地域の活性化 快適性・ゆとり 地域のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 家島港では、1日23便年間約56万人の旅客船利用がある。機能分担により一部の貨物をシフトし、船舶の輻輳の削減を図り、船舶航行の安全性、住民及び来島者への快適性を確保する。 家島港では、プロパンガス、油脂類等の危険物が人口密集地で陸揚げされている。網手港整備により危険物を含め一部の貨物をシフトし、住民生活の安全、安心の向上を図る。 住民生活の向上、産業活性化への支援、観光振興への貢献の観点から家島港を家島町の玄関口としたターミナル施設の強化・拡充の要望が強い。 旅客船が接岸する既設係留施設は、老朽化が著しく改修と合わせてバリアフリー化を行い、住民の利便性を向上させる。 網手港は、中心市街地の生活圏と道路でつながっていると同時に、大型船舶による輸送が出来る係留施設の築造が可能で、かつ一体性のある施設整備が図れる。 家島町及び住民が参画と協働で作成した「家島町 港湾・漁港マスタープラン」を基本とした整備であり、地元の要望が強い。
(2)有効性・効率性 有効性 効率性	<ul style="list-style-type: none"> 「つくる」から「つかう」の観点から、各港湾の機能分担を行うことにより、効率的な整備を行う。 費用便益比 B/C=1.86 「マスタープラン」を基本とした整備計画であり、地元協力体制等事業執行環境が整っている。
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料では、希少種等の生物生息環境は確認されていないが、事業実施にあたって、水質、生物等環境に対する影響の調査を行い、保全対策を行うこととしている。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 本土との交流を海上交通のみに頼る家島には、海上輸送の安全、安心を確保するため、以前から改修する必要があった。平成16年度「マスタープラン」の完成により地元執行環境が整ったため、当事業を早急に実施する。